

十勝西部森林管理署

森林整備官 小野 代補

十勝西部森林管理署

豊似森林事務所

森林官補

五十部 有紀

背景・目的

- ・主伐期を迎え造林面積が増加し、担い手不足が深刻化
- ・持続的な森林経営の推進に向け、採算性向上が急務

実施場所：広尾1119は林小班

造林地面積：0.23ha

現地写真（全天球カメラ画像）→



造林作業の省力化・低コスト化事業を実施し、コストの可視化と課題の整理を実施

方法

生産と造林の一貫作業（H28）

素材生産から大型機械地拵まで、
積算・作業を一体的に実施



低密度植栽（H29）

低密度で植栽
(950本/ha・アカエゾマツ)

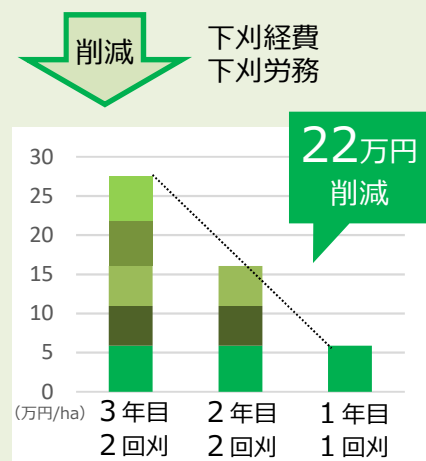
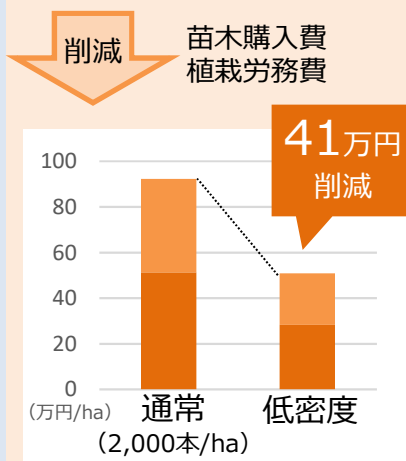
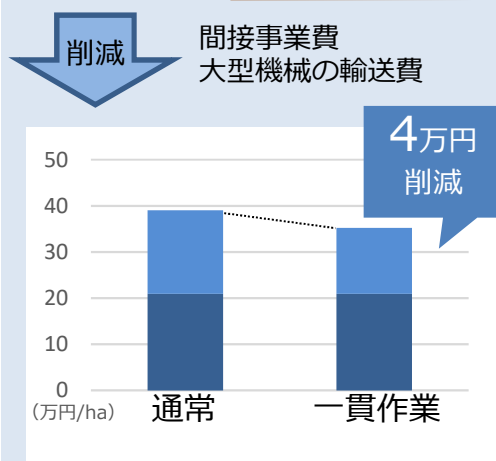


下刈の省略（H30～）

大型機械地拵により、
2年目以降の下刈を省略



結果



全体で67万円/haの削減（159万→92万）

課題

一貫作業への事業体の理解と協力が必要
地拵強度の判断が難しい

密度効果の低減が
苗木成長に影響する可能性あり

下刈要否の判断に明確な基準がない

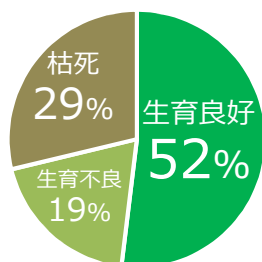
今後の展開

植栽木（アカエゾマツ）の育成

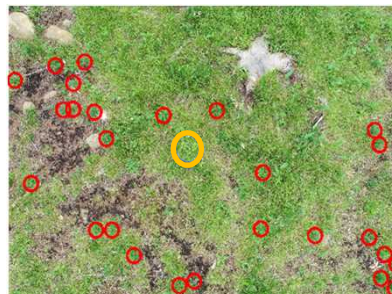
天然更新木の活用

カラマツと広葉樹（カバ類）

植栽木の生育状況（R1.11）



平均樹高 54.6cm



○:カラマツ ○:アカエゾマツ



平均樹高 24.3cm 18.7cm



密度効果はなくても順調に生育するか？
間伐時期をどのように決定するか？

どのように管理していくか？

現在2万本/haで天然更新

広葉樹を育成できるか？

エゾシカの比較的多い地域